

令和5年度 久世こども園自己評価書・学校関係評価書

令和6年2月28日
真庭市立久世こども園

1. 久世こども園の教育保育目標

〈教育保育目標〉

心も体も健康でたくましく、生き活きと活動する園児を目指して

〈目指す子ども像〉

- 健康で明るい子ども
- 自分のことは自分でする子ども
- 自分の考えを発表できる子ども
- 友達と仲良く遊ぶ子ども
- 豊かな心情をもち考える子ども

2. 本年度の重点目標（課題）

- (1) 人と関わる喜びや思いやりの気持ちを育み、言葉で伝え合う力を育てる。
 - ・「話したい」「伝えたい」と思えるような環境構成の工夫をする。
 - ・一人一人の話をしっかりと受け止め、話したくなる気持ちや聞いてもらう満足感が味わえるようにする。
- (2) 心や体を動かして遊べる環境の工夫に努め、様々なことに主体的に関わりながら遊び込める力を育てる。
 - ・遊びの充実に向けて、環境構成や援助の仕方を工夫する。
 - ・職員間の連携や情報共有を密にする。
- (3) 家庭との連携を深めながら生活習慣の定着を図り、心身ともに健康で安全に生活する態度を育てる。
 - ・園児や保護者の気持ちに寄り添いながら、丁寧な対応を心掛ける。
 - ・「ちゃれんじカード」の活用。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合 評価	評価委員評価 (学校評議員 評価)
教育保育課程 指導計画	教育保育課程に基づき、年齢や個々の発達段階を把握し、指導計画の立案を行った。園児の興味関心に合わせ臨機応変に対応しながら、計画を立て実施した。	3. 2	4
行事	幼児期に経験させたい事柄と園児の発達段階を捉えながら、行事の内容を検討し、実施してきた。	3. 5	4
組織・運営	責任をもって、担当業務に取り組むことができた。全職員が協力し合いながら運営に携わることができた。ただ、細かい打ち合わせをする時間が取りにくかったため、検討していきたい。	3. 5	3
学級経営	園児一人一人の気持ちに寄り添うことを大切に援助を心掛けてきた。全職員で連携を深め、共通理解して全園児を支えることができた。	3. 5	4
特別支援教育	外部関係機関との連携しながら、取り組んできた。特に支援方法については、毎月外部指導者より助言をもらいながら試行錯誤しながら進めてきた。保護者の思いにも寄り添いながら、丁寧に進めることを心掛け、取り組んできた。	3. 5	3
安全管理 保健指導	園舎内外の安全点検を定期的に行い、安全管理に努めてきた。園児への指導についても避難訓練や交通安全指導等で自分の命を守ることを伝えながら、時々にあった指導内容を検討し、実施した。	3. 6	4

研修 (資質向上)	全職員、研修会に参加することができた。園内研については、新採研があり、毎月充実した研修を行うことができた。個々においても、専門書を読んだり、個人的に研修会に参加したりしながら、資質の向上に努めた。	3. 3	3
情報提供 保護者・地域との連携	行事や園児の様子を掲示板に写真で掲示したり、アプリを活用して、動画や園児の様子など配信し、保護者への情報共有に努めてきた。地域との連携に関しては、課題が残っている。	3. 3	3
小学校との接続・連携	年間を通じて協議の場を設定し、計画的に行ってきた。また交流会については、1・5年生との交流会を実施することができた。ただ、小学校へ合わせた計画となっているため、今後こども園の要望も伝えながら、計画していけたらと考えている。	3. 2	3
子育て支援	職員から進んで挨拶や声掛けを行い、保護者が相談しやすい雰囲気作りに努めてきた。園児の様子についても育ちやトラブルも丁寧な説明をし、園と保護者が同じ思いで園児に関われるよう努めた。	3. 5	3
食育の推進 (給食)	年間指導計画に基づき、年齢に合わせた食育指導を行ってきた。栽培活動も真庭高校と連携し、交流会を含めた活動となった。“楽しい給食”を目指し取り組んできた。	3. 6	4
食事の提供	学校給食と連携し、安心安全な給食提供に努めてきた。3歳児には、食材が大きいときには、はさみで切ったりしながら、年齢に合った提供となるよう努めた。食物アレルギー児については、職員間で連携しながら、誤食がないよう努めた。	3. 5	4

4. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

- 教育保育目標に併せて計画が立てられている。園児の意欲を大切にしたいことができる環境を整えていることで、人と関わることや言葉の習得に繋がっている。
- “話す力”は、最後まで聞くこと。“聞く力”は、興味関心から自分のこととして聞くこと。強いでは、人を大切にするようになる。
- 小学校や地域との連携は、様々な年代との関わりから重要であると感じている。保護者や小学校、地域の力を借りて、連携を深めてほしい。小学校との交流は、園へ小学生が来ることもいいのではないか。
- 安全管理の面から防犯カメラの設置など検討されるように望んでいる。また先生達が安心して教育保育できる環境であるために人員不足の解消も課題である。
- 保護者アンケートからも園への信頼度は高いと感じる。安心して預けられる園であってほしい。地域との連携では、保護者の力を借りてもいいのではないか。
- ICTでの情報提供は、保護者にとっては、分かりやすく様子が伝わるので、続けてほしい。
- 食育指導が丁寧にされている。苦手だった食材が少しずつ食べられるようになり、成長を感じている。
- 職員間の連携が取れている。それは、安心感になっていると感じている。先生は、一人の大人として子どもたちの手本となってほしい。
- 職員研修では、時間の確保をしながら、引き続き質の向上に努めてほしい。

5. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

○こども園の教育保育について

教育保育課程や研究テーマを基に園児の意欲や主体性、表現する力が育まれるよう、職員間の共通理解を深めながら、引き続き取り組んでいきたい。肯定的に受け止めること、丁寧に受け止めること、寄り添うことを中心に園児の育ちを全職員で支えていきたい。

○小学校との連携について

園児の実態に合った計画を立て、小学校と協議しながら取り組んでいきたい。こども園からの発信も重要だと感じる。互いにねらいをもち、よりよい交流ができるよう事前事後の協議をしながら進めていきたいと考える。

○地域との連携について

保護者の協力を得ながら、地域を知る機会や人と関わる機会をつくっていきたい。活動の中に無理なく取り入れ、継続して取り組んでいける交流を検討していきたい。

○安全管理について

日々の点検や危機管理意識をもち、過ごしていきたい。防犯カメラの設置や人員確保については、担当課と協議が必要である。

○情報発信について

ICTを活用し、より伝わりやすい情報の工夫をしていきたい。また情報発信する上で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を照らし合わせることで幼児教育の理解に繋がるような情報になればと考えている。

○職員研修や職員連携について

安心して預けられる園にしていくためには、職員の質の向上や職員研修の充実を図らなければならない。時間を有効活用しながら取り組んでいきたい。また、保護者との信頼関係の構築のためにも保護者の思いに寄り添い、丁寧な対応を今後も心掛けていきたい。また園児にとってモデルとなる先生であることを心に留め、適切な対応に努めていきたい。

学校評議員・園評価基準

評価	基準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である